

【研究会抄録】

日本東洋医学会中四国支部島根県部会
第31回学術講演会

日 時：令和3年7月11日 (日)

会 場：松江テルサ

松江市朝日町478-18 (JR 松江駅前) TEL (0852) 32-5550

1. 婦人科癌手術後のリンパ浮腫・蜂窩織炎に対する漢方療法

松江生協病院女性診療科 戸田 稔子

【緒言】リンパ浮腫は主にかん治療を目的としたリンパ節廓清手術後に発症する四肢の浮腫で、原疾患は婦人科がんあるいは乳がんが多い。ひとたび発症すると女性のQOLを低下させるため、生涯管理が必要な慢性疾患である。また、リンパ管炎・蜂窩織炎はリンパ浮腫の代表的な合併症である。リンパ浮腫に対する治療は複合的治療が一般的であり、その効果は必ずしも十分ではない。

【症例】蜂窩織炎を反復して対応に苦慮しているリンパ浮腫症例に半夏白朮天麻湯を投与し、下肢痛が著明に改善したので報告する。

症例は53歳の女性で、4年前に子宮体癌の手術を受けた。リンパ節転移を認めず、Ia期と診断された。手術経過は順調であったが、半年後から両下肢のリンパ浮腫を発症、1年後から下肢蜂窩織炎を起こすようになった。術後4年目には、蜂窩織炎のために5か月に渡り入院や通院治療を反復した。抗生剤投与により症状が軽快しても、慢性的な下肢の痛みが持続し悩んでいた。

漢方医学的な証に応じて、半夏白朮天麻湯を投与したところ、約1週間後から下肢痛が軽減していった。たまに脚が腫れても痛みが出ない、炎症にまで至りにくい、仕事を継続できる、と患者の満足度が極めて高かった。約5ヶ月間内服し中止した。最近では年に2回程度軽い蜂窩織炎を起こすが、抗生剤投与で対応できている。

【考察】半夏白朮天麻湯は、金時代の「脾胃論」の出兵で、脾気虚を伴うめまいや頭痛に用いられる漢方薬である。12の構成生薬からなり、水のアンバランスを改善する利尿作用の他、体力・気力をつける参耆剤でもある。リンパ浮腫という局所的な水滞の水をさばく、水を駆動する気を改善するという両作用が、症状改善に有効であったと考えられた。

【結語】現代のがん治療では、生命予後を改善することは当然であり、その上にQOLを維持することが標準的に求められる。リンパ浮腫の予防は困難であり、有効な治療法は確立されていない。ガイドラインでは、漢方薬の有効性は十分に立証されていないため、複合的治療の効果が不十分な場合に限り投与を考慮する、とされている。症例により適切な漢方薬を投与することは、非常に有用であると考えられた。

2. コロナ禍の発熱外来における漢方診療の実態

島根大学医学部附属病院 漢方外来

朝倉さわやかクリニック 宮本 信宏

傷寒論の時代から発熱患者に対しては漢方診療で対応可能であると知られている。COVID-19感染症の流行により軽微な症状でも発熱外来を受診する患者が増え、ますます漢方医学の存在価値は高まっている。現代のコロナ禍においては咳や頭痛、下痢などの感冒症状のみだけでなく、不安や肥満で外来を訪れる患者も多く、有効であった代表的処方提示する。

3. 気虚発熱と診断し補中益気湯が有効であった1例

福嶋整形外科医院 福嶋 裕造

気虚発熱と診断し治療として補中益気湯を投与して有効であったので報告する。症例は26歳女性であり、手指の疼痛のため当院を受診した。諸検査にて関節リウマチは否定的であったが、最近生じている微熱の治療を希望したため、追加検査で発熱の原因になる感染症・悪性腫瘍・膠原病を否定した。漢方医学的に気虚発熱と診断し補中益気湯を投与したところ、発熱を自覚しないようになり熱型も改善したため有効であったと判断した。補中益気湯はもともと陰火による気虚発熱に対して立方されたが、現在ではそれ以外の疾患に使用されることが多い。今回症例を提示して補中益気湯について解説した。

【WEBランチョンセミナー】

「皮膚科医による舌診と夏の漢方処方」

広島大学医学部附属医学教育センター

センター長 蓮沼 直子 先生

【特別講演】

「心の研究」

井口クリニック 井口 敬一 先生